

法人設立50周年記念誌

10年のあゆみ

<2015年度～2024年度>

公益社団法人

香川県看護協会

目次

会長挨拶	公益社団法人香川県看護協会	会長 富山 清江	1
歴代会長			3
祝辞	公益社団法人日本看護協会	会長 秋山 智弥	5
	香川県知事	池田 豊人	6
	高松市長	大西 秀人	7
	一般社団法人香川県医師会	会長 久米川 啓	8
写真でみる 10 年			10

I 香川県看護協会法人設立 50 周年記念行事

記念式典・記念講演会			16
------------	--	--	----

II 特別寄稿

ワンチームとしての日々	元公益社団法人香川県看護協会	会長 中村 明美	22
法人設立 50 周年にあたって	前公益社団法人香川県看護協会	会長 安藤 幸代	24

III 寄稿

第 48 回 日本看護学会－看護教育－学術集会を振り返って	学会準備委員長	平木 民子	28
第 51 回 日本看護学会－ヘルスプロモーション－学術集会を振り返って	学会準備副委員長	三原由紀美	30
「感染管理認定看護師教育 B 課程」の開設に取り組んで	前公益社団法人香川県看護協会	会長 安藤 幸代	31

IV 職能委員会活動

保健師職能委員会	委員長	前田 幸代	34
助産師職能委員会	委員長	阿部 慈	35
看護師職能委員会 I (病院領域)	委員長	福本由美子	36
看護師職能委員会 II (介護・福祉関係施設・在宅等領域)	委員長	谷脇 直美	37
職能委員会活動としての子どもと子育て世代包括ケア推進のためのモデル事業への取り組み	専務理事	田中 邦代	38

V 委員会活動

選挙管理委員会	委員長	和氣久美子	42
推薦委員会	委員長	蓮井 磨紀	43
教育委員会	委員長	石川 祐樹	44
認定看護管理者教育運営委員会	委員長	香川 良江	45

安全管理ネットワーク委員会	委員長	出口 等史	46
災害看護対策委員会	委員長	妹尾 陽子	47
学会委員会	委員長	近藤 三枝	48
社会経済福祉委員会	委員長	井内 陽子	49
ナースバンク委員会	委員長	金香真由美	50
訪問看護推進委員会	委員長	山崎 千絵	51
広報出版委員会	委員長	大西 美佳	52

VI 支部活動

「地区支部における看護職連携構築モデル事業」の取り組み	専務理事	田中 邦代	54
第1支部	支部長	林 珠美	56
第2支部	支部長	山田 寿美	57
第3支部	支部長	熊野 知恵	58
第4支部	支部長	南原 愛子	59
第5支部	支部長	岡本 文枝	60
第6支部	支部長	多田 清美	61
第7支部	支部長	守谷 正美	62

VII ナースセンター事業

香川県ナースセンターのあゆみ	常任理事	三村 真史	64
----------------	------	-------	----

VIII 新型コロナウイルス感染症拡大における活動

新型コロナウイルス感染症への対応	専務理事	田中 邦代	68
新型コロナウイルス感染症の活動経過			70
1) 宿泊療養施設での健康観察業務従事者からのメッセージ			72
高松赤十字病院	安藤 智洋		
	石倉 久直		
香川県立中央病院	香川 良江		
2) 健康相談コールセンター相談業務従事者からのメッセージ			73
高松赤十字病院	池田 哲代		
	寛 初恵		
	高島小百合		
3) 高齢者施設等への派遣業務従事者からのメッセージ			75
坂出市立病院	岡崎 朋身		
かがわ総合リハビリテーション病院	門田 弘光		
※香川大学医学部附属病院	田中ひとみ		
※高松赤十字病院	丸岡 一恵		
4) IHEAT 従事者からのメッセージ			77
	石川 朱美		
	三原由紀美		
5) ワクチン接種業務従事者からのメッセージ			78
	石川 幼菜		
	三原由紀美		
6) 県行政の担当看護職として			79
(1) コールセンター等の業務	※香川県健康福祉部健康福祉総務課	井川 良子	
(2) 宿泊療養施設等の業務	※香川県健康福祉部医務国保課	谷本 愛	

※担当時所属

IX 香川県不妊・不育症相談事業

香川県不妊・不育症相談センター	細川 三幸	82
-----------------	-------	----

X 訪問看護事業の活動

高松ケアステーションみちしるべ	所長	長内 秀美	86
訪問看護ステーションこくぶ	所長	安部美枝子	87
居宅介護支援事業所こくぶ	所長	大林佐都美	88
まるがめ訪問看護ステーション	所長	小野 雪絵	89
訪問看護ネットワークセンター	センター長	安部美枝子	90

XI 看護の普及事業

「看護の日」記念行事・ふれあい看護体験	専務理事	田中 邦代	92
---------------------	------	-------	----

XII 荣誉に輝く人びと

叙勲	96
厚生労働大臣表彰	96
香川県知事表彰	97
日本看護協会会長表彰	97
香川県知事感謝状	98
高松市長感謝状	98
香川県看護協会会長表彰	98
関係団体等表彰	99

XIII 資料編

研修実施状況	102
組織図	122
職種別会員数推移	123
年度別役員	124
委員会と年度別委員長	125
年表	126
定款・定款細則	131

編集後記



法人設立50周年記念誌 発刊のごあいさつ

公益社団法人香川県看護協会
会長 富山 清江

平素は当会事業につきまして格別のご協力とご支援を賜り心から感謝申し上げます。

本誌は、40周年記念誌に続き、その後の10年(2015年から2024年)を振り返り、法人設立50周年を迎え記念誌として編集を行いました。

はじめに、2015年以降、気象変動による風水害および2016年熊本地震をはじめとする数多くの大規模震災発生や2020年1月新型コロナウイルス感染症発生に係る誰も経験したことのないウイルスとの対峙を余儀なくされました。これらの支援にご尽力いただいた医療関係者、多くの関係機関の皆様へ感謝の意を表しますとともに、皆様の安全と被災された方々の生活が1日も早く平穏に復することをお祈り申し上げます。

さて、本会は、1976年9月30日社団法人設立(2012年公益社団法人移行)後、会員ならびに関係機関の皆様のご支援のもと設立50周年を迎え、2025年5月21日に法人設立50周年記念式典を執り行うことができました。現在、約6,833名(令和7年5月末)の会員(保健師172名・助産師282名・看護師6,212名・准看護師167名)を擁し、所属施設に限らずあらゆる地域、あらゆる場所で目覚ましい活躍をしており、深甚なる敬意と謝意を申し上げます。この10年間は、国では少子高齢化の進展および生産年齢人口の減少が加速する中、人生100年時代の到来を見据えた持続可能な全世代型社会保障制度改革による医療介護総合確保推進法のもと、地域包括ケアシステムの実現を目指し急速に発展しました。そこで、2015年に公益社団法人日本看護協会では、看護の将来ビジョン～いのち・暮らし・尊厳をまもり支える看護～を表明し、2025年にむけ看護の価値と新たな挑戦とする重点課題・重点事業を本会と連携しながら展開しております。時代背景とともに価値観の多様化、不透明な将来を迎える中においても、看護職は自らの能力と裁量を発揮し、求められる新たな役割をあらゆる分野で自らの能力と裁量を発揮し期待に応え続けています。2023年6月には、人生100年時代に活躍する看護職の生涯にわたる学びを支える羅針盤として、看護職の倫理綱領や法令をふまえ、生涯学習の考え方を示した「看護職の生涯学習のガイドライン」が公表されました。さらに、2023年10月「看護師等の人材確保の促進に関する法律(人確法)」に基づく「看護師等の確保を促進するための措置に関する基本的な指針」が約30年ぶりに改定され、過去から現在、未来へと看護の質を次世代へとつむいでいく体制が整備されました。本会の使命である看護職が教育と研鑽に根ざした専門性に基づいた看護の質の向上、安心して働き続けられる環境整備、看護領域の開発・展開により、人々のニーズに応え人々の健康な生活の実現に寄与してまいります。

これからも皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願いし、あわせて皆様のご健勝、ご多幸を祈念申し上げます。

末筆ながら、ご多忙の中、玉稿をお寄せ頂いた皆様、ご苦勞頂いた法人設立50周年記念誌編集委員会の皆様に心より御礼申しあげ、発刊のお祝いの言葉とさせていただきます。

歴代会長



臼杵 久子
1976年
(昭和51年)



水沢 秀子
1977年
(昭和52年)



荻田 ヒサ工
1978~1979年
(昭和53年~54年)



岡田 美代
1980~1981年
(昭和55年~56年)



平岡 キヨ子
1982年
(昭和57年)



臼杵 久子
1983~1988年
(昭和58年~63年)



佐久間 善子
1989~1994年
(平成元年~6年)



大畑 啓子
1995~2000年
(平成7年~12年)



山本 良子
2001~2006年
(平成13年~18年)



渡邊 照代
2007~2012年
(平成19年~24年)



中村 明美
2013~2018年
(平成25年~30年)



安藤 幸代
2019~2023年
(令和元年~5年)



富山 清江
2024年~
(令和6年~)



香川県看護協会 法人設立50周年記念誌によせて

公益社団法人日本看護協会
会長 秋山 智弥

公益社団法人香川県看護協会が法人設立 50 周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。50 年もの長きにわたり、看護職の皆様とともに、香川県民の健やかな生活の実現に向け、地域に根差した活動を続けておられますことに、深く敬意を表します。

香川県看護協会では、これまで香川県教育委員会と連携し、全国に先駆けて若者や子どもの健康を守る事業を展開してこられました。1983(昭和 58)年に健全母性育成事業推進委員会を設置、保健師と助産師による「思春期電話相談」、県内の看護学生による「ピアカウンセリング」などを経て、現在でも小・中学校へ助産師を派遣する「いのちのせんせい」や中・高校生へ向けた「看護の出前事業」を継続されています。長きにわたり、多感な世代である青少年や保護者に命の尊さを直接訴えかけるとともに、看護の心を広く伝え続けてこられた貴重な取り組みは、今日「こどもまんなか社会」を掲げる国の政策の先取りであったといえましょう。

一方、超高齢社会を迎えた今、治療や療養の場は病院から地域へと拡大しており、これからは病気や障害があっても地域で暮らし続けられる「治し支える医療」が重要になります。香川県看護協会におかれましては、1992(平成 4)年香川県内で初となる訪問看護ステーションを設置され、以降、増設と多機能化に積極的に取り組んでこられました。これはまさに地域包括ケアにおける看護の機能強化であり、県民の医療と生活の質を高め、住み慣れた地域でその人らしく生活するための看護実践として優れた成果を挙げられています。

日本看護協会では 2025 年 6 月に「看護の将来ビジョン 2040」を公表しました。あらゆる場で人々の健康や療養を支える不可欠な存在として、その人らしさを尊重する生涯を通じた支援、専門職としての自律した判断と実践、キーパーソンとしての多職種との協働を目標に、「いのち・暮らし・尊厳をまもり支える看護」の実現に力を尽くしてまいります。住み慣れた地域における最も身近な医療専門職として看護の力を最大限に発揮できるよう、共に手を携え、看護の未来を切り開いてまいります。

法人設立 50 周年という節目の年に、これまで香川県看護協会の礎を築いてこられた先達の皆様のご功績に改めて敬意を表するとともに、今後益々のご発展と、更なるご活躍を心より祈念いたします。

祝 辞



香川県知事 池田 豊人

このたび、公益社団法人香川県看護協会が法人設立 50 周年という大きな節目を迎えられ、記念誌を発刊されますことを、心よりお慶び申し上げます。

貴協会は昭和 51 年に法人を設立されて以来、半世紀にわたり看護職能団体として会員の皆様の看護サービスの向上に努められ、県民の皆様の医療及び公衆衛生の向上にご尽力いただいております。深く感謝申し上げます。これも偏に、富山会長をはじめ、歴代の会長、役員、並びに会員の皆様方の不断のご努力と熱意の賜物であると、深く敬意を表します。

この 50 年の間、医療を取り巻く環境は大きく変化してきました。医療技術の高度化・専門化、社会構造の変化に加え、新型コロナウイルス感染症の流行や、毎年のように発生する自然災害など、私たちが直面する課題はますます複雑化しています。そのような中であって、看護職の皆様は、常に患者やそのご家族の皆様に寄り添い、医療現場の最前線で、質の高い看護の提供に尽力されてきました。特に、訪問看護をはじめとした在宅医療の推進や、助産師の出向支援による安全・安心な出産環境の整備など、県民の皆様が安心して暮らせる社会の実現に向けてご尽力いただいております。深くお礼申し上げます。

また、近年は超高齢社会が進展し、地域包括ケアの重要性が増す中で、看護職の皆様が担う役割はますます多様化・高度化しています。身体的ケアにとどまらず、心のケアや生活支援、さらには多職種連携の推進など、その活動は幅広く、地域にとって欠かせない存在となっています。

こうした中、香川県では、安心で質の高い医療提供体制の充実・強化に努めるとともに、看護師等養成所、県内医療機関、香川県看護協会など関係団体と緊密に連携し、「看護職員の養成」「離職防止」「再就業支援」を三本柱として、県内で就業する看護職員の確保・定着に積極的に取り組んでおります。とりわけ、近年は 18 歳人口の減少が進み、保健医療を担う看護職員の人材の確保や育成は、県政にとっても極めて重要かつ喫緊の課題となっております。こうした課題に対応するためにも、今後とも皆様方のお力添えをいただきながら、県民の皆様が安全で安心して暮らすことのできる社会の実現に努めてまいりたいと考えております。

結びに、香川県看護協会のますますのご発展と、会員の皆様方のご健勝、そして県民の健康に寄与するためご活躍されることを祈念してお祝いの言葉といたします。

祝 辞



高松市長 大西 秀人

公益社団法人香川県看護協会が、記念すべき法人設立 50 周年の節目を迎えられましたこと、心からお祝い申し上げます。

会員の皆様方におかれましては、昭和 51 年の設立以来、長年にわたり、看護職が安心して働き続けられる環境づくりはもとより、人材育成や、積極的な看護人材の確保などに努められ、質の高い看護サービスの提供や看護職の資質向上などを通して、市民の健康保持・増進に、多大なる御貢献を賜っておりますこと、深く敬意と感謝の意を表する次第でございます。

さて、ここ数年を振り返りますと、社会経済活動に多大なる影響を及ぼしました、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を思い起こさずにはいられません。類例のないパンデミックに対しまして、看護職の皆様方におかれましては、医療現場の第一線で患者対応に追われ、大きな業務負担を強いられながらも、医療体制を守り抜かれました。その功績は、私たちの記憶に深く残るものとなり、看護職の役割の重要性が再認識されたものと存じます。

近年は、少子・超高齢化社会が急激に進行しており、本格的な人生 100 年時代を迎えております。健康を取り巻く社会環境も大きく変化しておりまして、生涯にわたり健康で豊かな生活を送るためには、これまで以上に質の高い医療サービスの提供や、健康増進などに向けた取組が求められているところでございます。

さらに、高齢者が、医療や介護が必要な状態になっても、住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らし続けられるよう、医療・介護・介護予防・住まい・生活支援が一体的に提供される、地域包括ケアシステムの更なる推進も求められておりまして、皆様方に寄せられる期待は、より一層、高まっているものと存じます。

このような中、本市では、「人がつどい 未来に躍動する 世界都市・高松」を目指すべき都市像とする「第 7 次高松市総合計画」におきまして、「誰もが自分らしく健やかに暮らせるまち」の実現を、まちづくりの目標の一つに掲げておりまして、健康づくりの推進や医療体制の充実などの各種施策に、積極的に取り組んでいるところでございます。

今後とも、香川県看護協会の皆様方におかれましては、法人設立 50 周年を契機として、相互の堅い結束の下、更なる看護サービスや看護職の資質の向上などに御尽力いただきますとともに、本市の保健・医療・福祉施策に対しまして、引き続き、御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、公益社団法人香川県看護協会の今後ますますの御発展と、会員の皆様方の更なる御健勝、御活躍を心から祈念申し上げましてお祝いの言葉といたします。

祝 辞



一般社団法人香川県医師会
会長 久米川 啓

香川県看護協会におかれましては、このたび法人設立 50 周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。

貴会におかれましては、高い理念を掲げ県民のニーズに応えるため、看護の質の向上、看護職の労働環境の整備等、様々な事業・取り組みにご尽力されておられますこと、心より敬意を表します。

少子高齢化など、日本の人口構造は急激に変化し、ついに団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年を迎えました。厚生労働省が推進してきた地域包括ケアシステムは、全国各市町で構築され、自治体によって特色ある取り組みが展開されています。高齢者が要介護状態になっても、住み慣れた地域で最期まで自分らしく暮らすため、患者さんやご家族をサポートするには、医師やケアマネジャーなど多職種の連携が必須となります。このチーム医療の中で、看護師さんは医療に精通していることに加え、介護や福祉職にとって身近な存在であることから、多職種連携の中心として重要な役割を果たしています。また、看護師さんは患者さんと直に接する時間が長く、コミュニケーションを通じて、健康管理や治療に関する理解を深め、最適なケアを提供するための調整役も果たしています。このように、看護師さんの専門知識や調整能力は、患者さんの健康を守るために欠かせない存在であり、より効果的なチーム医療を実現するための要と言っても過言ではありません。今後も、医療と介護の橋渡し役として、貴会の皆様方のご活躍を期待申し上げます。

さて、近年、医療制度は大きな変革が続いています。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、オンライン診療の実施要件が緩和され、導入する医療機関が急増しました。そして健康保険証の新規発行を停止し、マイナンバーカードを健康保険証として利用する仕組みに一本化され、患者さんの同意があれば医療機関や薬局で、特定健診や薬剤情報の閲覧が可能となりました。さらに、自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てする「セルフメディケーション」を掲げ、医師が処方する医療用医薬品のうち、副作用が少なく安全性の高いものを OTC (Over The Counter) 医薬品に転用し、医療機関を受診せずに薬局・ドラッグストアなどで購入できるスイッチ OTC 医薬品が増加傾向にあります。しかし、医学的知識のない方の自己使用は病状の悪化や不幸な事態を引き起こす恐れがあり、我々医師会は「ヘルスリテラシー」の向上が大前提であり、医療費抑制のための手段としての「セルフメディケーション」については、明確に反対を表明しています。

このように、近年の医療費増大対策として、国は医療保険制度改革を切り出していますが、全ての地域・全ての世代の患者さんが、適切な医療・介護を受け、健康的な日常生活を送り、また、医療従事者も持続可能な働き方を確保することを、貴会の皆様方と共に目指してまいりたい所存です。今後、より一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びにあたり、貴会の益々のご発展と、会員の皆様方のご健勝並びにご活躍を心から祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

写真でみる10年

2015

日本看護協会
「2025年に向けた看護の挑戦 看護の将来ビジョン
～いのち・暮らし・尊厳をまもり支える看護～」を表明
(2015年6月)

2016



香川県看護協会法人設立40周年
並びに「看護の日」制定25周年記念講演会開催
(2016年5月15日)

2017



第48回日本看護学会—看護教育—学術集会開催
(2017年8月3日・4日)

2018



在宅ケアステーションみちしるべ増築 (2018年3月)



「香川県不妊相談センター」から
「香川県不妊・不育症相談センター」として名称変更 (2018年4月)



豪雨災害 (岡山) に災害支援ナース延べ10名を派遣 (2018年7月)

2019

Nursing Nowキャンペーン

(2019年5月~2021年6月)



2019年度香川県保健師助産師看護師
実習指導者講習会修了者



2020年度認定看護管理者教育課程
ファーストレベル修了者

2020



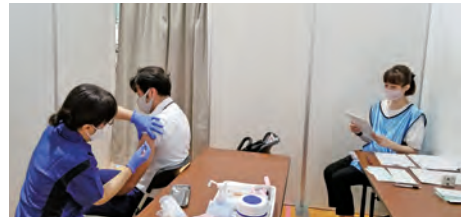
第51回日本看護学会－ヘルスプロモーション－
学術集会 WEB学会 (2020年11月1日～30日)



新型コロナウイルス感染症軽症者等の
宿泊療養施設での健康観察業務研修



コロナワクチン接種講習会



コロナワクチン接種会場

2021



「訪問看護ステーションこくぶ」「居宅介護支援事業所こくぶ」新社屋竣工
(2021年3月28日)



IHEAT研修 (2021年9月11日)

2022



第37回香川県看護学会 (WEB開催)
(2022年1月30日)



香川県助産師出向支援導入事業
10周年記念講演会 (2022年2月29日)

2023



「看護の日・看護週間」記念講演会
(2022年5月15日)



コロナ対応潜在看護職研修
(2022年11月17日)



感染管理認定看護師教育B課程開講
(2023年9月1日)



日本看護協会より
「かんどちゃん(着ぐるみ)」寄贈
(2023年4月25日)

2024



「看護の日・看護週間」記念行事にてPRラッピングバスで県内を走行(2024年5月13日)



2024年度認定看護管理者教育課程
サードレベル開講式
(2024年5月17日)



2024年度災害支援ナース養成研修
(2025年1月21日・22日)